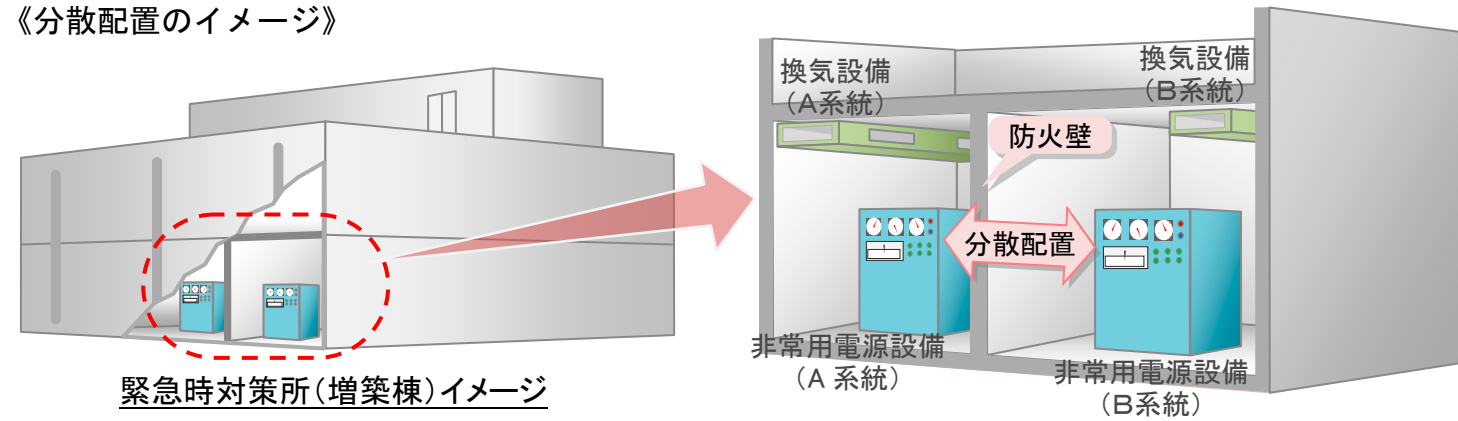


安全性向上対策の工事内容の一部見直し(概要)

緊急時対策所の機能強化

- ・ 重大事故時に緊急時対策所を確実に使用できるよう、新たに建設する増築棟について、非常用電源設備や換気設備の多重化を考慮していましたが、更に防火壁で仕切られた部屋に分散して配置することで、火災対策を強化します。
- ・ 空調機能について、耐震性を確保したうえで、災害対策要員の作業環境向上のための強化を行います。
- ・ 上記の見直しなどを行うことにより建屋面積が拡大します。
- ・ このため、今後、緊急時対策所（増築棟）の設計を見直し、建屋建設、機器の製造・据付を行います。

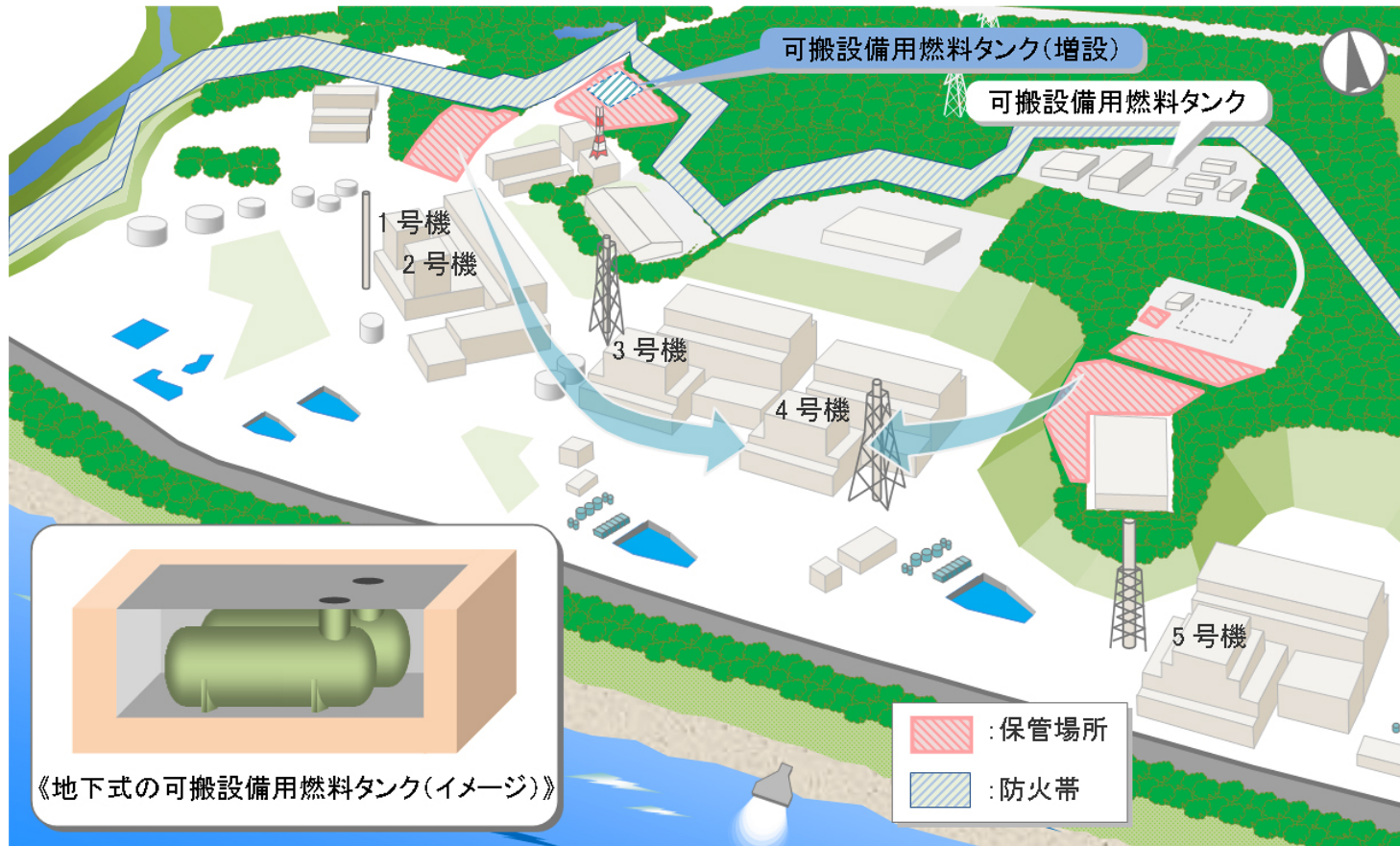
《分散配置のイメージ》



緊急時対策所(増築棟)イメージ

可搬設備の保管場所・アクセスルートの確保

- ・ 外部からの火災の影響を受けないよう、可搬設備（発電機、ポンプ車等）の保管場所2箇所および保管場所から4号機までのアクセスルートを防火帯（※）の内側に配置します。
- ・ 重大事故時に可搬設備をより一層確実に使用できるよう、耐震性を確保したうえで、竜巻・火災の影響を受けない地下式の可搬設備用燃料タンク（1週間分）を、津波による万一の敷地浸水時においても影響の少ない保管場所に増設します。（※）森林火災の影響を防ぐためのエリア



《地下式の可搬設備用燃料タンク(イメージ)》

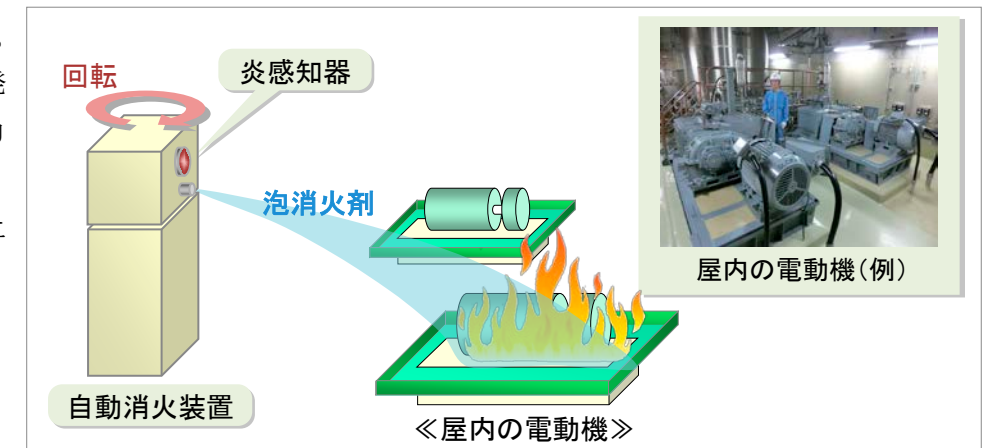
火災対策

- ・ 自衛消防隊が火災現場に出向かなくても消火装置で対応できる範囲を広げ、火災の種類に応じた消火装置を増設します。
- ・ 油を内部に含む電動機等の機器の火災については、炎までの距離を特定し自動または遠隔操作で消火する自動消火装置や放水銃を設置します。
- ・ 電源設備の火災については、電源盤内の火災を自動で消火する盤内消火装置を設置します。

《自動消火装置について》

屋内の電動機の近傍に設置します。炎感知器で火災を監視し、火災が発生すると炎までの距離を測定し自動で消火を行う装置です。消火には、冷却性・窒息性に優れた泡消火剤を使用します。

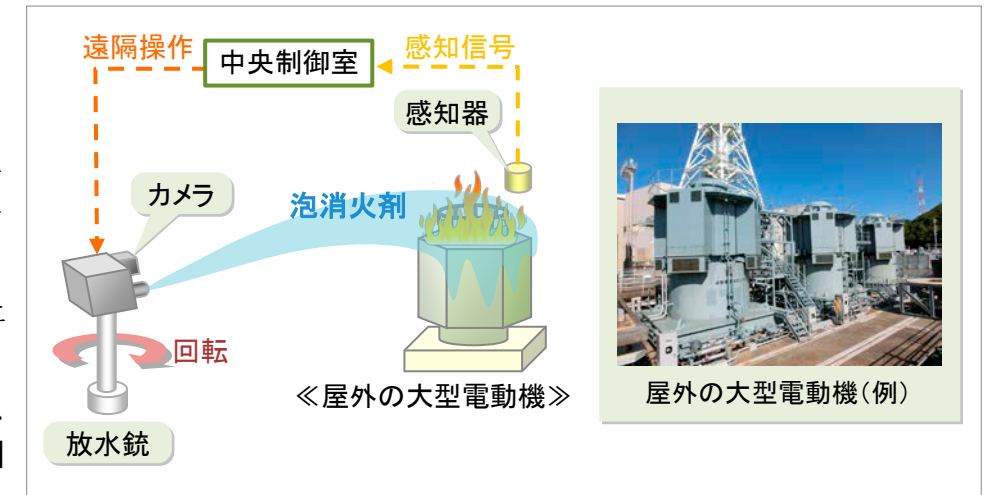
【設置箇所：約 50 箇所】



《放水銃について》

屋外の大型電動機等の近傍に設置します。感知器が動作すると中央制御室に信号が送られ、カメラの映像をモニターで監視しながら、遠隔で放水銃を操作します。消火には、冷却性・窒息性に優れた泡消火剤を使用します。

【設置箇所：循環水ポンプ電動機、再循環ポンプ電動機用変圧器】



《盤内消火装置について》

電源盤内に設置します。電源盤内の火災を自動的に感知して消火を行います。消火には、使用後も機器に影響を与えない消火ガスを使用します。

【設置箇所：約 500 箇所】

